

平成20年9月中間決算の概要

1.	要 約	1ページ
2.	営 業	2
3.	損 益	5
4.	収益関係諸指標	7
5.	財務内容	10
6.	リスク管理	14
7.	今期の業績予想	15
(付)	営業店一覧	16

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て

問合せ先
広報室 吉原 和子
財務室 熊田 豊
電話(代)024-525-2525

1. 要約

○平成20年度上期の当行を取り巻く環境をみると、米国のサブプライムローン問題は欧米の金融危機に発展、これを映じ日本の株式市況も大幅に下落した。当行の主たる営業基盤である福島県の経済も、業種間・企業間の格差を伴いつつ、総じて悪化傾向を辿った。

○こうした中、当行の9月中間決算は純利益で14億円の赤字となった(前年同期は10億円の黒字)。中間期の赤字は13年9月期(168億円の赤字)以来7年ぶりのことである。

○これは、米国の金融危機を背景とした株式・債券の値下りから有価証券の償却が18億円と多額に達したことが最大の要因であるが、貸出や窓販など営業の低迷からコア業務純益が減少したこと、減少を見込んでいた不良債権処理費用が取引先企業の業況悪化や倒産から高止まりしたことも一因である。

○財務内容をみると、9月末の不良債権比率は5.91%と引続き低下傾向を辿った(3月末5.99%)。一方、9月末の自己資本比率は最終赤字や有価証券の含み損拡大から低下したが、それでも単体8.52%、連結9.00%とまずまずの水準を確保した(3月末、単体9.11%、連結9.58%)。

○先行きについては、貸出が夏場以降持ち直しに転じるなど収益回復要因も出てきているが、上期の不振を挽回するまでには至らず、21年3月期(通期)の純利益は5億円程度の黒字に止まる見通しである(従来予想は15億円の黒字)。

平成20年9月中間決算

(単位:百万円)

	単体ベース		連結ベース	
		前年同期		前年同期
経常収益	7,805	8,558	9,057	10,056
経常利益	▲ 1,551	802	▲ 1,461	814
純利益	▲ 1,492	1,054	▲ 1,477	1,041

2. 営業

(1) 預金

- 預金は上期中4億円増加し(前年3億円増)、9月末残高は5,775億円、前年比0.8%減となった。
- 預金者別にみると、公金預金は減少したが、個人預金が順調に増加したほか、一般法人預金も若干の増加。
- 期間別にみると、要求払預金が低調な一方、定期性預金は順調。

20年度上期の預金動向

(単位:億円)

		増 減		9月末残高	
			前年		前年比%
預金者別	個人	15	2	4,634	1.8
	一般法人	3	▲ 29	903	▲ 4.7
	地公体等	▲ 16	30	236	▲ 26.7
期間別	要求払	▲ 10	▲ 5	1,922	▲ 4.0
	定期性	14	8	3,852	0.8
合計		4	3	5,775	▲ 0.8

(2) 窓販

- 上期の窓販は投信、保険とも引続き低迷した。
- 9月末の預り資産残高は窓販の低迷、投信の基準価格下落から714億円と前年を8.4%下回った。

20年度上期の窓販動向

(単位:億円)

		窓 販 額		9月末預り資産残高	
			前年		前年比%
投	信	28	71	380	▲ 17.0
保	険	11	17	264	2.3
公	共 債	5	6	70	11.1
合計		45	96	714	▲ 8.4

(3) 貸出

- 貸出は上期中24億円減少し(前年118億円減)、9月末残高は4,401億円、前年比3.0%減となった。
なお、償却、売却といった特殊要因を除いたベースでは1億円の減少(前年90億円減)。
- 内容別にみると、住宅ローンが引続き増加したほか、事業性貸出も減少幅が縮小。
- やや長い目でみると、不良債権の最終処理もあって3年連続減少の後、今夏頃から持ち直しの兆し。
- ただ、貸出金利は競争の激化から引続き低下。

20年度上期の貸出動向

(単位:億円)

	増 減		9月末残高	
		前年		前年比%
消費性	31	0	1,340	4.5
住宅ローン	39	8	1,178	6.7
事業性	▲ 39	▲ 118	2,385	▲ 8.0
地公体	▲ 11	▲ 4	260	7.4
その他とも合計	▲ 24	▲ 118	4,401	▲ 3.0

貸出約定平均金利(残高ベース)

(単位:%)

	総平均		事業性貸出		住宅ローン	
	前期末比	前期末比	前期末比	前期末比	前期末比	前期末比
19/3月末	2.704	▲ 0.032	2.581	▲ 0.061	2.097	0.098
9月末	2.788	0.084	2.661	0.080	2.232	0.135
20/3月末	2.736	▲ 0.052	2.595	▲ 0.066	2.256	0.024
9月末	2.661	▲ 0.075	2.514	▲ 0.081	2.242	▲ 0.014

やや長い目でみた貸出の動向

(単位:億円)

	増 減		残 高	
		前年		前年比%
17年度	▲ 67	65	4,693	▲ 1.4
18年度	▲ 37	▲ 67	4,656	▲ 0.7
19年度	▲ 230	▲ 37	4,425	▲ 4.9
20年4~6月	▲ 77	▲ 84	4,348	▲ 4.9
7~9月	53	▲ 33	4,401	▲ 3.0
10月	▲ 9	▲ 66	4,392	▲ 1.7

(4) 有価証券

- 有価証券は上期中78億円減少し、9月末残高は1,018億円、前年比8.7%減となった。
- 9月末の預金に対する有価証券の割合(預証率)は17.6%と若干低下した(3月末19.0%)。
- 9月末の「その他有価証券」の含み損は51億円と3月末比5億円増加した。これは、欧米金融危機を背景に株式市況や変動利付国債の価格が9月末にかけて急落したことによる。

「その他有価証券」の含み損益

(単位:百万円)

	合計	債券	株式	投信
19/3月末	181	▲ 1,004	141	1,043
9月末	▲ 1,723	▲ 988	▲ 977	242
20/3月末	▲ 4,621	▲ 1,371	▲ 2,083	▲ 1,166
9月末	▲ 5,148	▲ 1,697	▲ 1,974	▲ 1,476

(注)変動利付国債の時価については、従来と同じく、理論価格ではなく市場価格を使用。

20年度上期の有価証券動向

(単位:億円)

	増 減		9月末残高	
		前年		前年比%
債券	▲ 54	80	877	▲ 6.6
株式	▲ 7	▲ 15	73	▲ 21.5
投信	▲ 19	16	66	▲ 19.5
合計	▲ 78	80	1,018	▲ 8.7

(参考)保有債券の内訳

(単位:億円)

	20/9月末	構成比%
国内債	718	81.9
国債	451	51.4
政保債	24	2.8
地方債	63	7.3
事業債等	178	20.4
外国債	159	18.1
円建外債	38	4.3
ユーロ円債	120	13.8
合計	877	100.0

3. 損益

(1) コア業務純益

○上期のコア業務純益は1,898百万円と前年を748百万円、28.2%下回った。

○これは、業務粗利益(収入)が前年比2,389百万円減少した一方、営業経費が同244百万円の減少に止まったことによる。

○業務粗利益の減少は次の事情による。

- ①貸出量の減少や貸出金利の低下に伴い貸出金利息収入が前年比556百万円減少したこと。
- ②預金金利の上昇に伴い預金利息の支払いが同266百万円増加したこと。
- ③窓販の低迷に伴い窓販関係の手数料収入が同123百万円減少したこと。

(単位:百万円)

	20/9月期	19/9月期	前年比
業務粗利益	4,415	6,804	▲ 2,389
資金利益	5,228	6,079	▲ 851
貸出金利息	5,577	6,133	▲ 556
有価証券利息配当金	769	821	▲ 52
預金利息	1,131	865	266
役員利益	518	651	▲ 133
窓販手数料	251	374	▲ 123
その他業務利益	▲ 1,332	72	▲ 1,404
国債等債券関係損益	▲ 1,338	58	▲ 1,396
経費	3,854	4,098	▲ 244
人件費	1,835	1,921	▲ 86
物件費	1,740	1,885	▲ 145
一般貸倒引当金繰入	632	▲ 44	676
業務純益	▲ 71	2,749	▲ 2,820
コア業務純益	1,898	2,646	▲ 748

(注)コア業務純益は、業務純益から一般貸倒引当金繰入と国債等債券関係損益を除いたもので、事業会社の営業利益に相当。

(2) 経常利益・純利益

○経常利益は、コア業務純益の減少、有価証券の償却、不良債権処理費用の高止まりから1,551百万円の赤字となった(前年802百万円の黒字)。

・有価証券の償却……サブプライムローン関連商品の保有は皆無ながら、米国大手投資銀行の円建外債の償却1,155百万円(うちリーマン・ブラザーズ825百万円)、国内株式の償却569百万円などから1,865百万円に達した。

有価証券の償却

(単位:百万円)

	20/9月期	19/9月期	前年比
債券	1,155	-	1,155
株式	569	383	186
投信	140	-	140
合計	1,865	383	1,482

・不良債権処理費用……当初は3億円強の減少と見込んでいたが、取引先の業況悪化や倒産に伴う追加引当、償却から1,590百万円とほぼ前年(1,673百万円)並となった。

○この結果、特別損益を含めた中間純利益は1,492百万円の赤字となった(前年1,054百万円の黒字)。

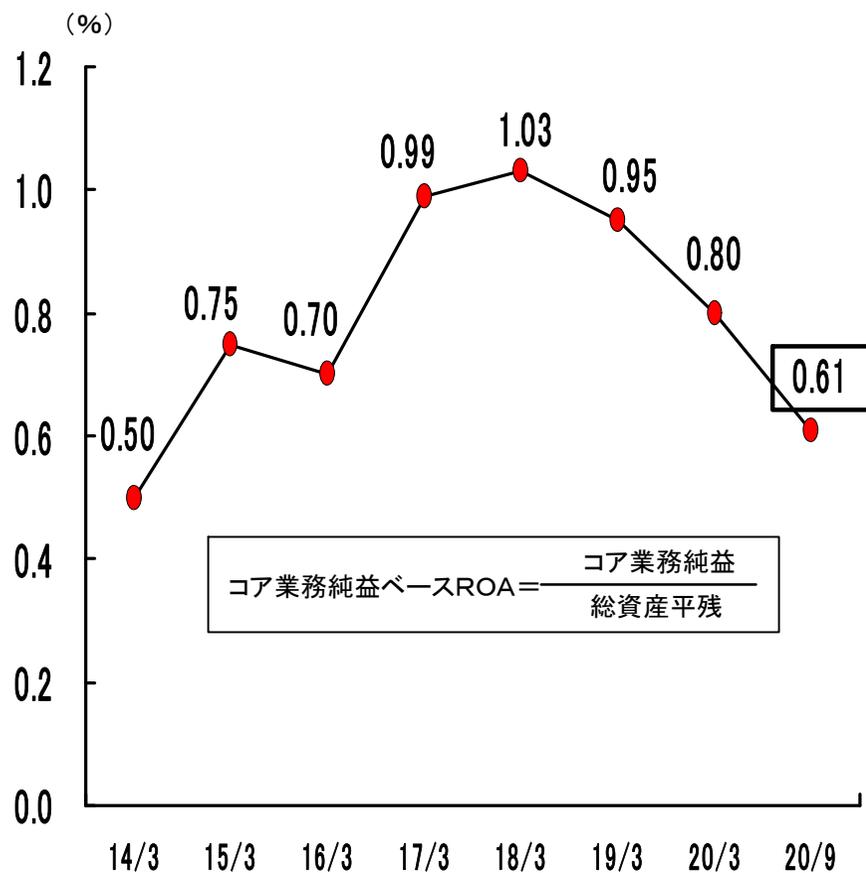
(単位:百万円)

	20/9月期	19/9月期	前年比
コア業務純益	1,898	2,646	▲ 748
不良債権処理費用	1,590	1,673	▲ 83
一般貸倒引当金繰入(▲戻入)	632	▲ 44	676
個別貸倒引当金繰入	117	414	▲ 297
貸出金償却	841	1,231	▲ 390
貸出債権売却損	-	71	▲ 71
株式関係損益	▲ 549	▲ 272	▲ 277
経常利益	▲ 1,551	802	▲ 2,353
特別利益	100	275	▲ 175
償却債権取立益	96	275	▲ 179
特別損失	29	9	20
減損損失	13	-	13
中間純利益	▲ 1,492	1,054	▲ 2,546

4. 収益関係諸指標

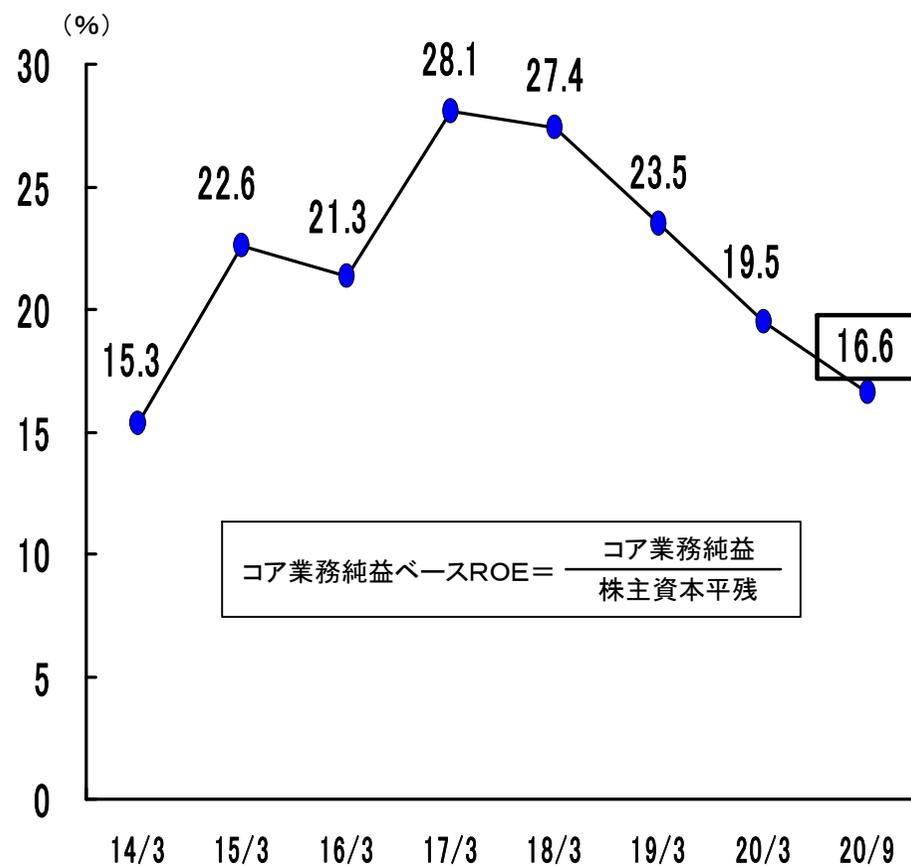
(1) ROA【コア業務純益ベース総資産利益率】

○資産の活用度合を示すROAは0.61%に低下
(前期0.80%)。



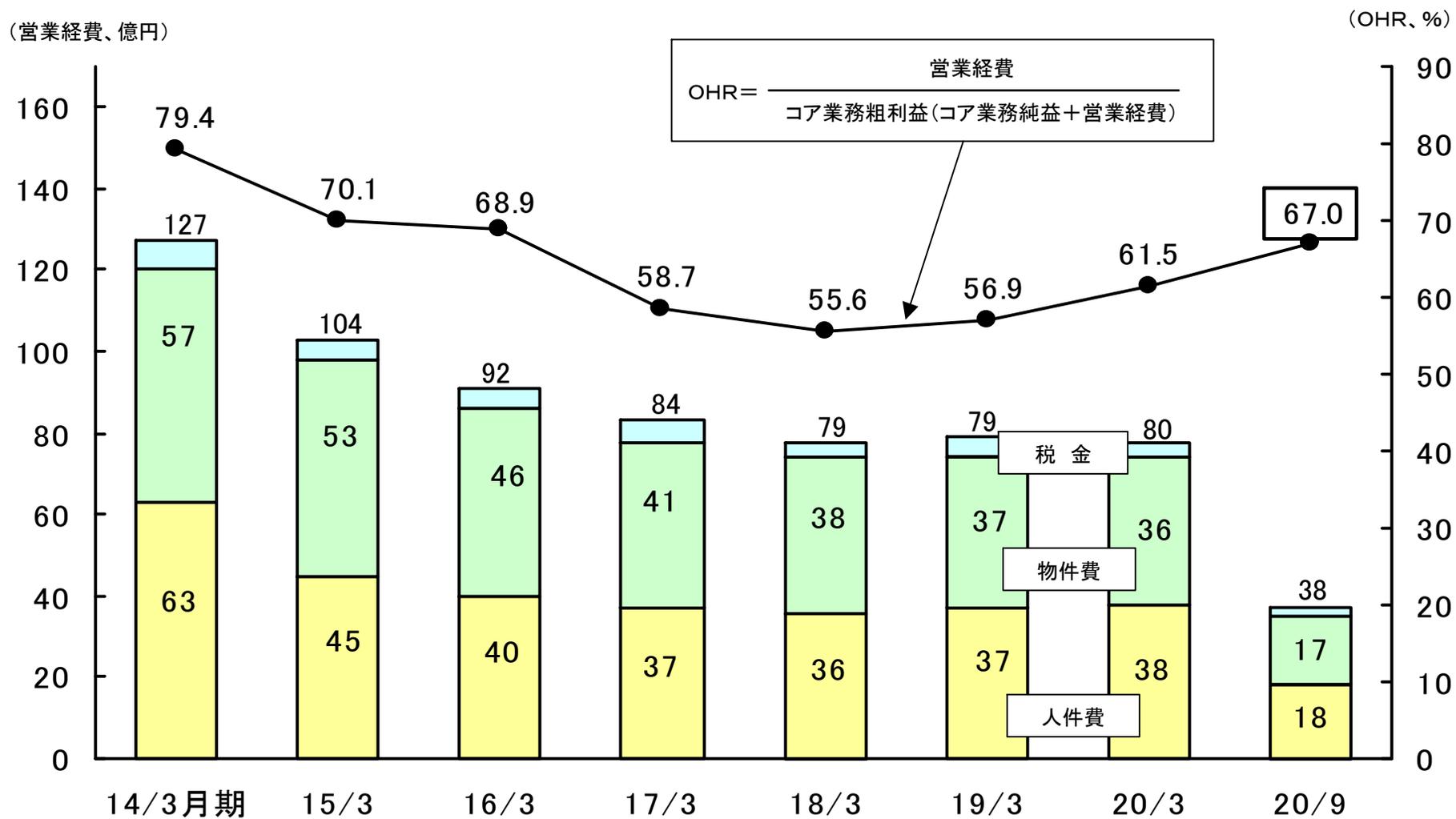
(2) ROE【コア業務純益ベース株主資本利益率】

○株主資本の活用度合を示すROEは16.6%に低下
(前期19.5%)。



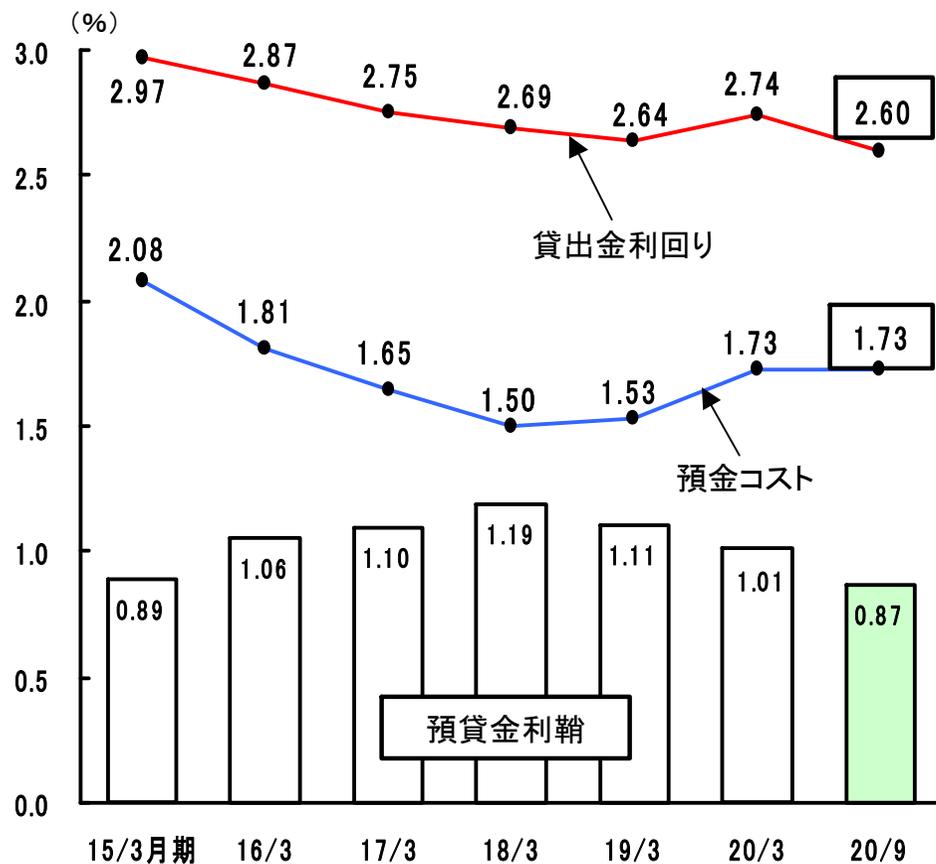
(3) OHR【コア業務粗利益ベース営業経費率】

○コア業務粗利益に占める営業経費の割合を示すOHRは67.0%に上昇(前期61.5%)。



(4) 利鞘

○預貸金利鞘は0.87%と貸出金利回りの低下から前期比0.14%ポイント縮小。

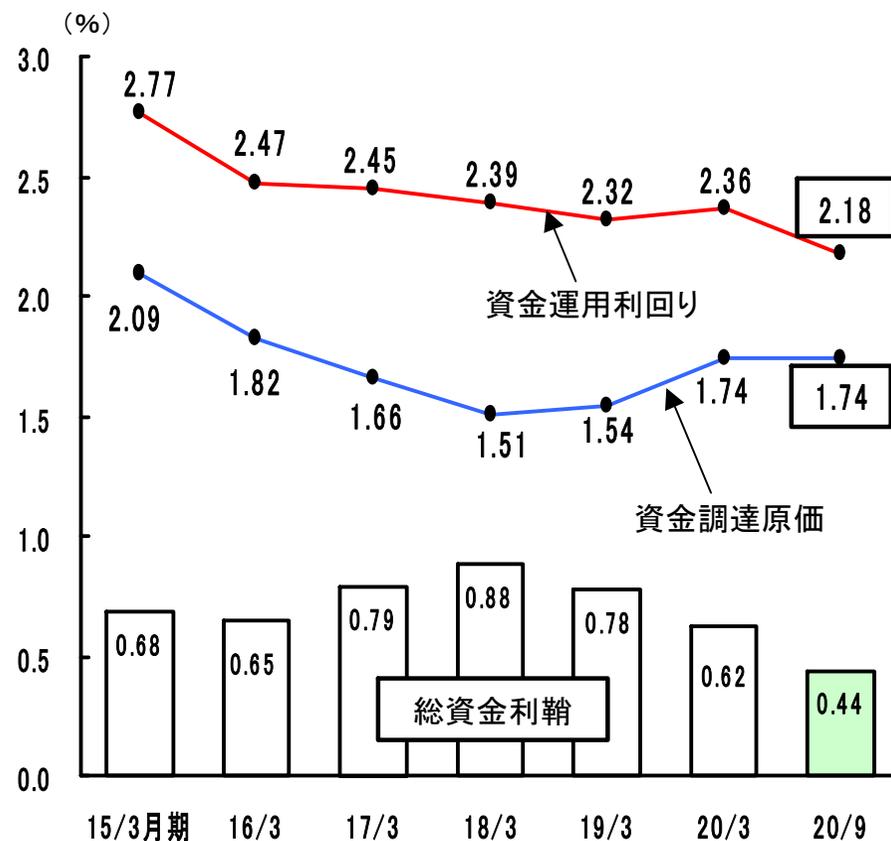


(単位:%)

(参考)

	18/3	19/3	20/3	20/9
預金利回り	0.08	0.15	0.33	0.39

○有価証券等を含めた総資金利鞘も0.44%と資金運用利回りの低下から前期比0.18%ポイント縮小。



(単位:%)

(参考)

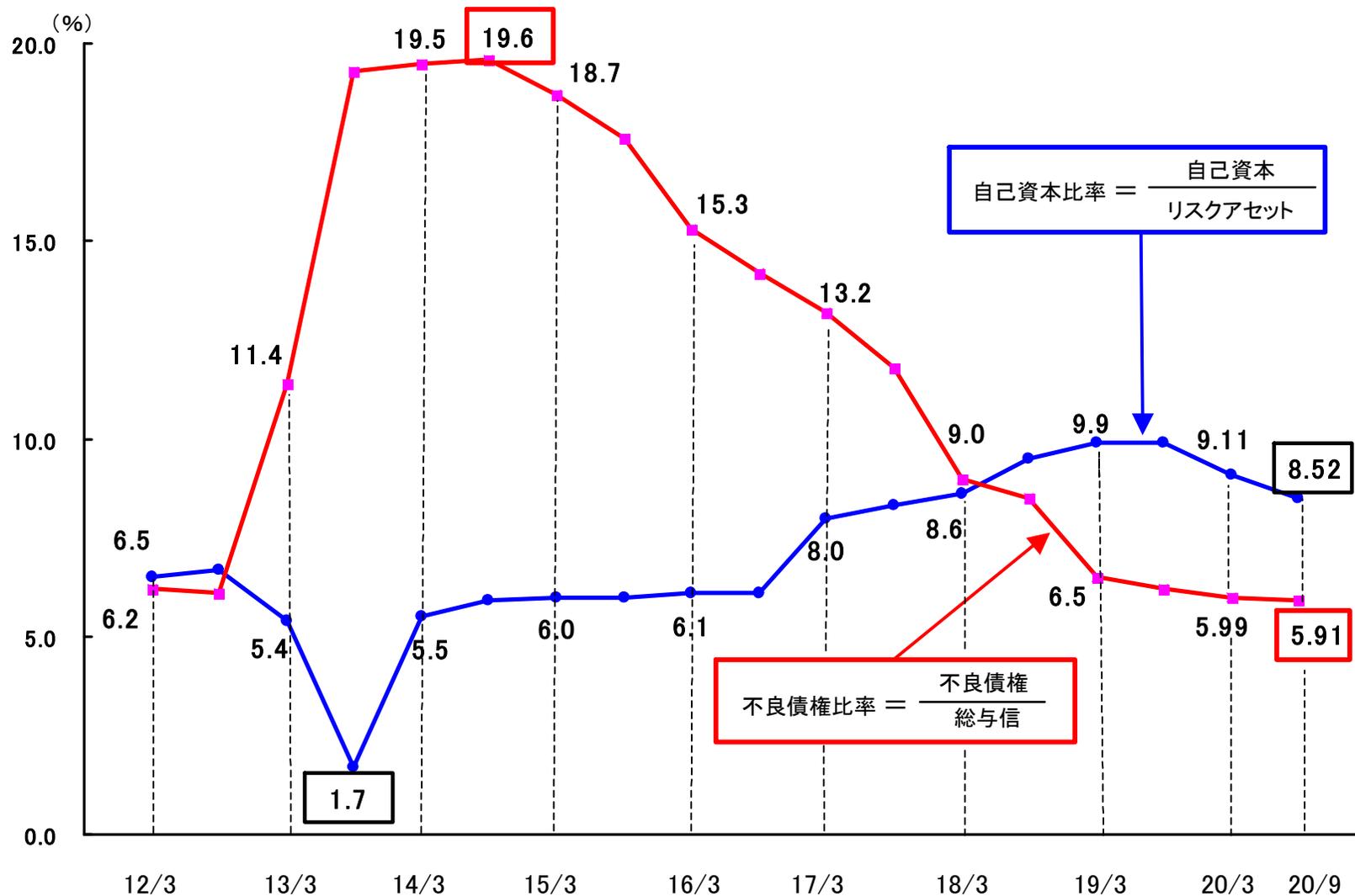
	18/3	19/3	20/3	20/9
有価証券利回り	1.25	1.32	1.39	1.30

5. 財務内容

(1) やや長い目でみた動向

○不良債権比率は、ここにきて下げ渋っているが、引続き低下。

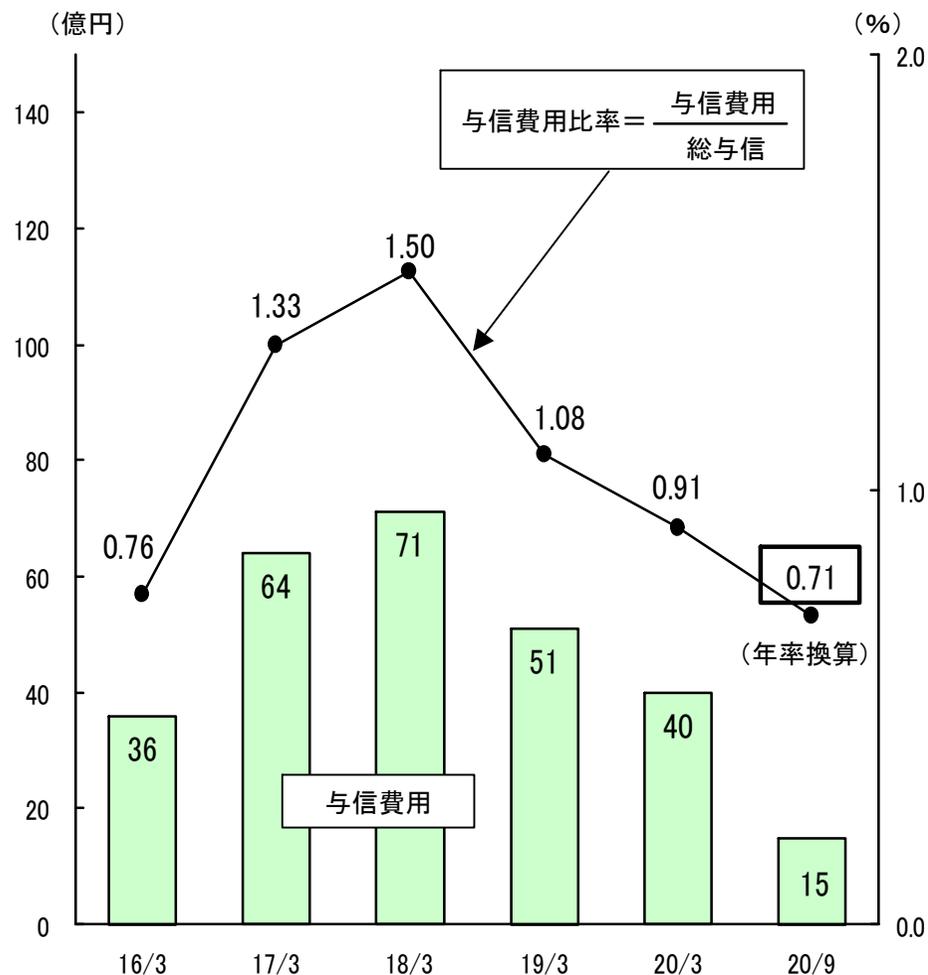
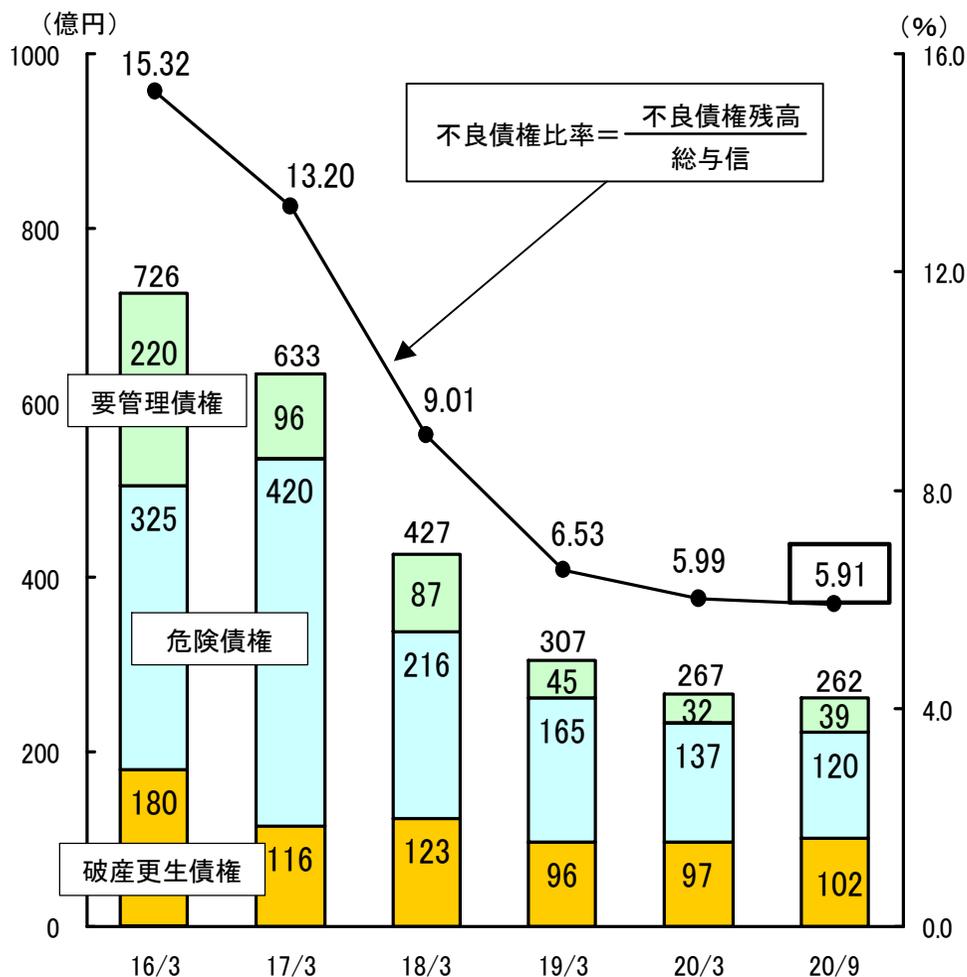
○自己資本比率は、ここにきて若干低下したが、依然8%台半ばを確保(連結ベースでは9%)。



(2) 不良債権(金融再生法基準)

○9月末の不良債権は262億円と3月末比5億円減少し、不良債権比率も5.91%に低下(3月末5.99%)。

○9月中間期の与信費用比率は0.71%に低下(前期0.91%)。



(注) 与信費用 = 貸倒引当金繰入額 + 貸出金償却 + 債権売却損

○不良債権増減の内訳をみると、取引先企業の業況悪化を反映し、正常債権から不良債権に下方シフトする動きは高水準の前期をやや上回るペースとなっている。

(単位:億円)

	不良債権 増減額	正常債権からの		償却	売却	返済 回収
		上方シフト	下方シフト			
17/3月期	▲ 93	▲ 32	48	▲ 62	0	▲ 47
18/3月期	▲ 206	▲ 15	49	▲ 82	▲ 107	▲ 51
19/3月期	▲ 120	▲ 15	42	▲ 35	▲ 59	▲ 53
20/3月期	▲ 40	▲ 16	74	▲ 43	▲ 10	▲ 45
20/9月期	▲ 5	▲ 4	39	▲ 23	—	▲ 17

○9月末の不良債権に対する保全率は86.1%と不良債権に対する備えは十分。

(単位:億円)

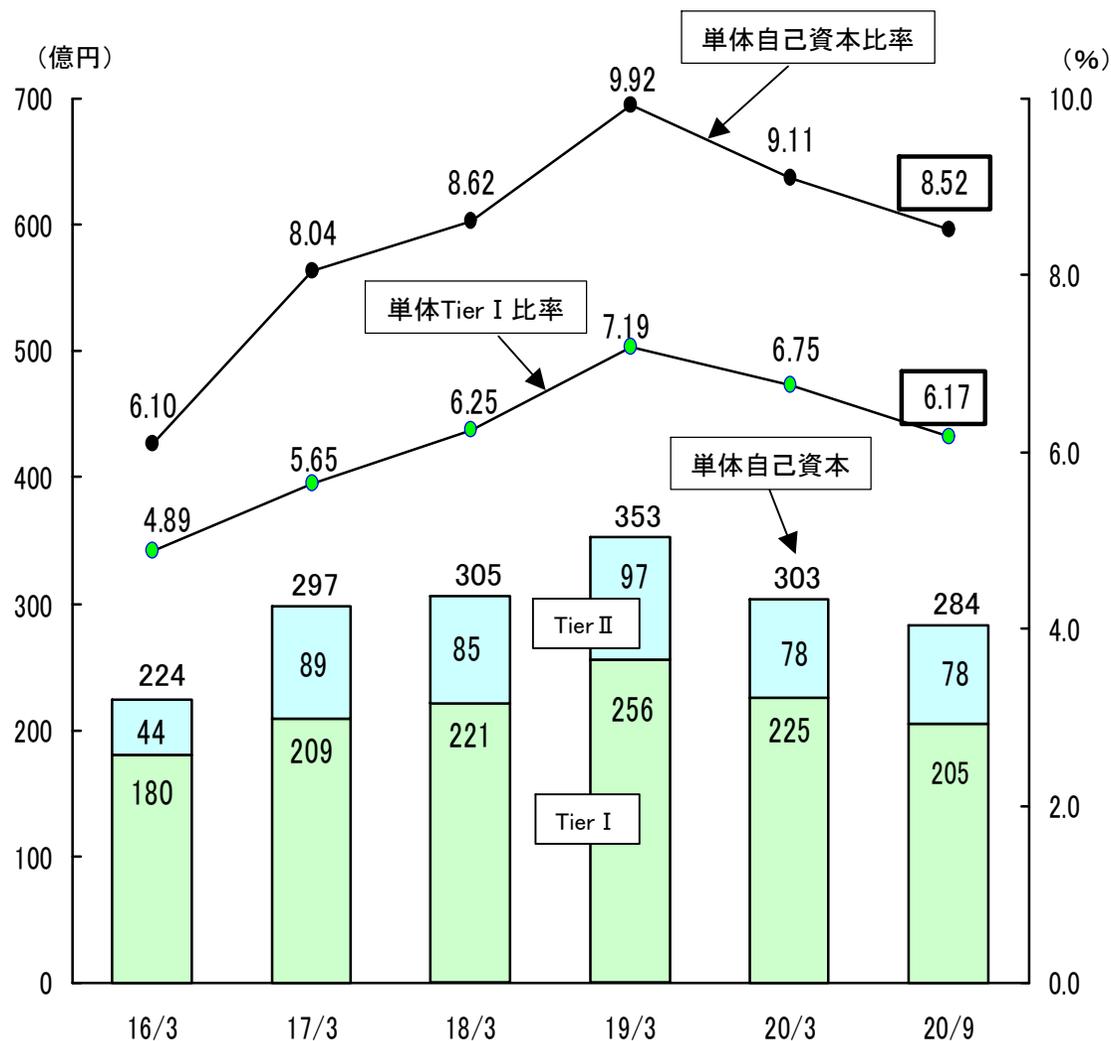
	債権額 A	保全額 B	保全率 %		
			担保・保証	引当金	
破産更生等債権	102	102	98	3	100.0
危険債権	120	103	64	38	85.8
要管理債権	39	19	12	6	50.9
合計	262	226	176	49	86.1

(3) 自己資本

○自己資本は284億円と3月末比19億円減少。最終赤字14億円と有価証券含み損の増加5億円による。

○リスクアセットに対する自己資本の比率は8.52%と前期比0.59%ポイント低下。

なお、連結ベースの自己資本比率は9.00%と9%台を確保(3月末9.58%)。



(参考) 連結ベース

	(単位: %)	
	自己資本比率	Tier I 比率
16/3末	6.24	5.06
17/3末	8.19	5.82
18/3末	8.87	6.51
19/3末	10.21	7.50
20/3末	9.58	7.23
20/9末	9.00	6.66

6. リスク管理

(1) 統合リスク

- 9月末の統合リスク量は市場金利のボラティリティ上昇から172億円と3月末比32億円増加。
- 統合リスク量の自己資本に対する比率は60.5%、Tier I に対する比率は83.9%に上昇。

(単位:億円)

	20/9月末	20/3月末
統合リスク量	172	140
信用リスク(貸出等)	61	52
市場リスク(有価証券等)	47	41
金利リスク(預金・貸出等)	44	25
オペレーショナルリスク	19	20
自己資本	284	303
Tier I	205	225
統合リスク量の自己資本比	60.5%	46.2%
〃 Tier I 比	83.9%	62.2%

(参考)リスク量の算出方法

- ・信用リスク、市場リスク、金利リスクはVaR(一定期間に一定確率で被り得る最大損失額)による。
- ・オペレーショナルリスクは基礎的手法(年間業務粗利益の15%)による。
- ・VaRの計測方法—観測期間1年、信頼水準99%、保有期間は次のとおり。
 信用リスク: 1年(240日)
 市場リスク: 政策投資株式・満期保有目的債券・仕組ローン各120日、
 売買目的有価証券10日、その他有価証券60日。
 金利リスク: 半年(120日)

(2) アウトライヤー規制上の銀行勘定金利リスク

- 9月末における銀行勘定金利リスク量の自己資本に対する比率は、自己資本の減少もあり、21.1%に上昇(アウトライヤー基準20%)。

	20/9月末	20/3月末
金利リスク量 A	60億円	55億円
自己資本 B	284億円	303億円
A/B	21.1%	18.1%

(参考)金利リスク量は標準的金利ショックを与えた場合の銀行勘定のネット経済価値の低下幅。
 金利リスク量の算出は99パーセンタイルによる。

7. 今期の業績予想

- 貸出が夏場以降持ち直しに転じるなど収益回復要因も出てきているが、上期の不振を挽回するまでには至らず、21年3月期(通期)の純利益は5億円程度の黒字に止まる見通し(従来予想15億円の黒字)。
- 期末の配当については、内外環境の変化や通期業績の下振れを考慮し、当初予定していた増配を見送り、前期の配当(1株当たり年1円50銭)を据え置く予定。

(単位:百万円)

		18/3月期 実績	19/3月期 実績	20/3月期 実績	21/3月期 予想	従来予想
単 体	経常収益	18,377	16,955	16,900	16,000	15,800
	経常利益	1,172	1,565	583	200	1,400
	純利益	1,064	1,620	1,043	500	1,500
連 結	経常収益	21,400	20,102	19,789	18,400	18,200
	経常利益	1,303	1,811	625	200	1,400
	純利益	1,062	1,509	1,005	500	1,500
1株当たり配当		年1.5円	年1.5円	年1.5円	年1.5円	年2.5円

(参考) 20/3月期には、配当のほか、自社株の購入(発行済株式数の4.4%に当たる10,686千株、1,015百万円)を実施。

(付) 営業店一覧(20年11月11日現在)

	店舗名	営業店長	電話番号	
県	本店営業部	常務取締役 和知 昭	024-525-2911	
	渡利出張所	中井 智	024-523-3341	
	山下町出張所	鈴木 学	024-531-5311	
	泉出張所	長嶺 公木	024-559-1231	
	福島西支店	星 昌吾	024-534-7158	
	福島北支店	葛西 宏一	024-553-5561	
	福島南支店	渡辺 吉信	024-545-3111	
	蓬萊出張所	小枝 政之	024-548-6331	
	笹谷支店	新田 孝喜	024-558-1135	
	岡部支店	手代木 巧成	024-531-8081	
	大森支店	和泉 好宏	024-546-5911	
	八島田支店	後藤 秀之	024-558-6001	
	飯坂支店	瀬谷 照雄	024-542-3251	
	保原支店	佐藤 健市	024-575-3101	
	桑折支店	眞壁 孝文	024-582-2207	
	川俣支店	長谷川 正人	024-565-2211	
	二本松支店	佐藤 明則	0243-22-2151	
	北	本宮支店	益弘 薫	0243-34-3161
		郡山支店	取締役副社長 鎌田 秀美	024-932-1500
芳賀支店		吉田 彰	024-956-0188	
開成支店		安田 貞雄	024-921-0301	
大槻支店		二瓶 健	024-951-8500	
郡山北支店		小野 英典	024-934-0155	
富久山支店		富山 浩明	024-934-1620	
菜根支店		佐藤 善範	024-923-4500	
安積支店		高田 昭一	024-945-5530	
荒井支店		半澤 健一	024-946-1850	
富田支店		佐久間 行英	024-952-3922	
須賀川支店		高野 俊哉	0248-75-2158	
須賀川西支店		熊坂 利秀	0248-72-8855	

	店舗名	営業店長	電話番号
県	矢吹支店	酒井 広則	0248-42-3911
	白河支店	古市 徳三郎	0248-24-1311
	船引支店	古川 次男	0247-82-1151
	石川支店	金子 章	0247-26-2127
	棚倉支店	斎藤 勇	0247-33-2211
	東館支店	小貫 博市	0247-46-3141
会津	会津支店	吉田 直人	0242-26-6311
	門田支店	前野 博之	0242-28-5131
	猪苗代支店	小野 誠	0242-62-2054
	喜多方支店	神谷 義晴	0241-22-2163
浜通り	相馬支店	上野 裕之	0244-35-2161
	原町支店	小石沢 好勝	0244-23-2158
	浪江支店	星 宗一	0240-34-3181
	富岡支店	芳賀 良栄	0240-22-2161
	四倉支店	原田 信一	0246-32-4151
	平支店	鈴木 弘志	0246-23-3331
	平東出張所	及川 清栄	0246-21-5411
	内郷支店	安斎 健造	0246-26-2061
	湯本支店	山崎 光	0246-42-2138
	小名浜支店	安達 英範	0246-53-4101
県外	植田支店	穴戸 康宏	0246-62-2151
	仙台支店	岩田 清吾	022-223-8191
県外	黒磯支店	今村 正弘	0287-62-1625
	水戸支店	山崎 英夫	029-224-5606
	大宮支店	中谷 幸信	048-643-2830

(参考)ローンプラザ一覧

福島	南 健治	024-521-6177
郡山	加藤 勲	024-932-3380
須賀川	砥石 一浩	0248-72-5840
白河	平井 稔	0248-24-5858
会津	加藤 健一	0242-37-2141
いわき	吉田 幸嗣	0246-37-8816

本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。

～お問合わせ先～

株式会社福島銀行 広報室

TEL: 024-525-2525 (代)

FAX: 024-536-5377

E-Mail: keiki@fukushimabank.co.jp

URL: <http://www.fukushimabank.co.jp>

以 上